

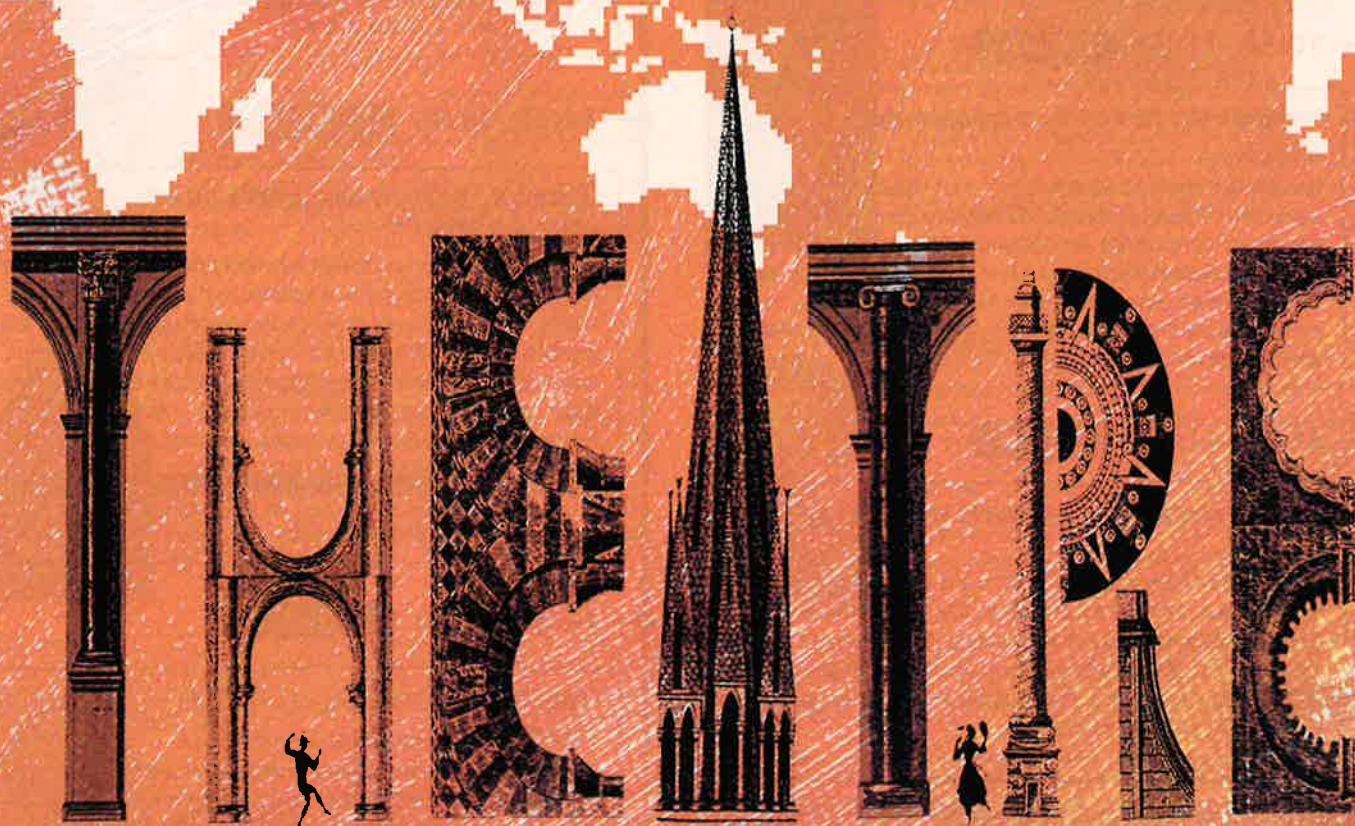
# 世界劇場会議 国際フォーラム 2018 in さいたま

2018年2月11日[日] 会場:さいたま市文化センター 多目的ホール

テーマ

## 劇場は社会に何ができるか、 社会は劇場に何を求めているかIII

～鑑賞者開発と資金調達環境の改善を両立させる劇場経営へ～



# THEATRE

## 世界劇場会議国際フォーラム2018 in さいたま International Theatre Conference Forum 2018 in Saitama

**テーマ 「劇場は社会に何ができるか、社会は劇場に何を求めているかIII」  
～鑑賞者開発と資金調達環境の改善を両立させる劇場経営へ～**

**2/11日 9:30 受付 会場:さいたま市文化センター 多目的ホール**

### 10:00~10:30 基調講演 I

「地域を共生社会に向かわせる拠点施設としての劇場音楽堂等へ。」

衛 紀生

2008年、可見市文化創造センター 館長兼劇場総監督に就任し、経営手法を180度転換させ、社会貢献型マーケティングを軸に観客数を3.68倍に、調達資金をおよそ29.4倍にして日本を代表する公立劇場へ成長したと劇場経営とマーケティングの理念と実際を語り、激しく音を立てて大きく「変化」する日本の文化政策と自治体が目指すべき文化行政の健全な在り方を探ります。文化政策とは、何よりも人間の尊厳に寄り添うものでなければなりません。すべての人間のよりどころでなければなりません。「芸術の殿堂から人間の家へ」の経営の根本理念に触れます。

### 10:30~11:00 基調講演 II

「社会課題を解決するプログラムと資金調達の相関性。」

セーラ・ジー

社会課題を解決に向かわせる包摂型コミュニティ・プログラムが社会的ブランド価値の高度化に寄与して資金調達を円滑に進める環境を形成するという昨年の世界劇場会議でのセーラ・ジー氏の主張は、多くの参加者に共感を持って受け入れられました。バーミンガム市交響楽団が世界を代表するオーケストラとなり強力な支持者・擁護者を開発できた背景には彼女の考え方がありました。バーミンガム市響のコミュニケーション部長を経て、現在英国を代表するマーケッターである彼女にその相関性と重要性を再び語っていただきます。

### 11:00~11:30 調査報告

「定性評価から定量評価へ、文化政策のエビデンス確立に向けて。」

幸地 正樹

社会的インパクト評価が文化政策のエビデンス形成として昨年からようやく動き始めました。昨年、文化庁から日本劇団協議会に拠出された戦略的芸術文化創造事業によって調査された岐阜県立東濃高校の事例と、4年前から行われている可見市内小学校へのワークショップと市内中学校のいじめ問題との、現在進行中の相関性調査を踏まえて、今後将来にわたっての文化政策における社会コスト削減に果たす社会的インパクト評価の可能性に言及します。

**2/11[日]「レセプション」**  
さいたま市文化センター大集会室 参加費4,000円  
フォーラムに参加された皆さんが「劇場」をキーワードに様々な意見や情報を交換する場として多くの方々の参加をお待ちしております。

### 12:30~14:30 Session1

「社会的ブランドと鑑賞者開発と資金調達の好循環、果敢に二兎を追う劇場経営。」

文化政策が社会包摂及び共生社会実現へと大きく変化しようとしています。そのような時代環境の変化の中で、劇場音楽堂等と自治体文化行政は何をなすべきなのか厳しく問われています。文化芸術は一部の愛好者と特権階級の独占物であることが許された時代から、すべての国民・市民にとって、生活の質の担保と孤立からのリスクを軽減する公共財としての役割が重視されつつあります。その実現が鑑賞者開発と資金調達の循環を有意に生み出すことを提案します。

パネラー	コメンテーター	進行
セーラ・オーグル、ヴィヴィアン・ヒューズ カス・ラッセル、堀 貴雄、新井 英夫	衛 紀生 セーラ・ジー	山出 文男 坂崎 裕二

### 14:40~16:40 Session2

「社会的ブランドと鑑賞者開発と資金調達の好循環、未来へ向かう経営デザイン。」

昨年2月に厚労省から出された「地域共生社会の実現に向けて」は、これからの社会の向かう方向性を提示してはいますが、その実現のための「処方箋」にはまったく触れていません。其処に止まっているのは、それが90年代から繰り返言われていた従来からの「コミュニティの再生」というスローガン以上でも以下でもないからであり、行政官の視野の狭さに起因します。その実現に向けては劇場音楽堂等の機能を十分に発揮させることを考えるべきであり、共助に向けたコミュニティ再生に劇場音楽堂等と文化芸術は大きな役割を持っているという認識を、まずは共有しましょう。

パネラー	コメンテーター	進行
セーラ・オーグル、ヴィヴィアン・ヒューズ、 カス・ラッセル、堀 貴雄、新井 英夫	衛 紀生 セーラ・ジー	山出 文男 坂崎 裕二

### 16:40~16:50 総括

「真のパブリックシアターへ」

下斗米隆

目標は「劇場の健全経営」。つまり、地域の中で劇場が愛され、必要とされる存在になること。その一環として「社会包摂活動」などの社会的活動を芸術活動と並行して行い地域の社会資産となっていくことを目指し、そのことによって広く観客開発と資金調達活動の環境を整えていく…この本来の公共劇場の姿の実現を目指すこと。税金で建てられ、運営されている公共劇場が、一部の芸術愛好家の専有施設となっている現状を打破することだ。

## ご挨拶



可見市文化創造センター館長兼劇場総監督 衛 紀生 Kisei Ei

世界劇場会議国際フォーラムでは、2013年の「明日の公共劇場を、Related Marketing (社会貢献型マーケティング)で成果を出してデザインする」から一貫して、税金で設置し、運営されている劇場音楽堂等の社会的使命の在り方と存在価値の高度化を提言してきました。そのプロセスで「社会包摂型劇場経営」の在り方を連続的に探ってきました。今回の世界劇場会議国際フォーラム2018では、再々度劇場にとっての永遠のテーマであり、自らに問い続けなければならない「劇場は社会に何ができるか、社会は劇場に何を求めているかIII」として、「鑑賞者開発と資金調達環境の改善を両立させる劇場経営へ」のタイトルで、縮小再生産されている芸術市場をV字回復させるための経営手法と、株主資本主義の企業経営の一般化によって説明責任を果たせない支出に数えられて同様に縮小傾向にある企業メセナと、財政逼迫により文化予算の削減傾向等の今日的な資金調達環境の改善のためのマネジメントとはどのようなものなのかをテーマに、Cause

、Related Marketing (社会貢献型マーケティング)で成果を出している英国の劇場、オーケストラの実務者に、「困難な時代のアーツマネジメント&マーケティング」の実際を紹介していただき、未来を切り拓く劇場及び芸術団体の21世紀型経営デザインを共有します。その根底には、従来型の「常識」に縛られた芸術愛好者開発の限界性と、支持者・擁護者(advocate)により支えらる「社会機関」としての劇場ホール・芸術団体の時代にもはや踏み込まなければならないという時代認識があります。社会的排除により人間の尊厳さえも脅かされる今日的な時代において、「いのちの尊厳」の砦としての劇場音楽堂等の公共的役割を果たすことを、私たちはいま求められているのではないのでしょうか。それを求めているのが国民・市民であり、まさに「普通の人々」であることは、言うまでもありません。

## パネラー・プロフィール



セーラ・ジー Sarah Gee

芸術文化組織コンサルティング会社インディゴ社業務執行役員  
公益芸術文化組織の分野で25年の経験を持つ。英国で資金調達に関するコンサルティングを行う傍ら、ヨーロッパや日本、中東などでブリティッシュカウンシル等が主催の人材育成や会議の統括などを務める。新しい形の資金調達に関心を持ち、バーミンガム大学と共同して寄付をする人の動機と観客のチケット購入行為との関連性についてのリサーチを行った。RPS(ロイヤル・フィルハーモニック協会)、NCA(公的文化芸術補助金促進運動団体)等を含む組織の理事を務め、RPSでは鑑賞者開発の審査委員長を兼任する。



セーラ・オーグル Sarah Ogle

リヴァプール・エグリマン&ブレイハウス  
マーケティング&コミュニケーション部長  
マンチェスター・ロイヤル・エクステンジ、ブラックプール・グランド、バーミンガム・レパートリーなどの劇場勤務を経て、2002年に故郷のリヴァプールに戻り、エグリマンの改築(RIBA建築賞受賞)及びブレイハウスを合わせた2つの劇場の観客及び世評の回復に関わった。  
リヴァプール舞台芸術大学(LIPA)のゲスト講師を務め、アーツ・マーケティング協会(AMA)、英国劇場協会、イングランド芸術評議会のイベント等で講演を行うほか、英国劇場マーケティング要請コースのディレクター、AMAの理事も務める。



カス・ラッセル Kath Russell

ハレ管弦楽団 資金調達部 部長  
コーナーハウスアーツセンターの資金調達責任者、政府特殊法人芸術ビジネスボンサー協会北部の初代主任、ハレ管弦楽団の資金調達部長等を歴任。ハレ管弦楽団在籍中に栄賞ある英国ギネス資金調達賞を1997年に受賞。ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団、マンチェスター・ロイヤル・エクステンジ劇場、リヴァプール・ビエンナーレ等で幅広く仕事をこなした後、ハレ管弦楽団の資金調達部長に再任。現在はウェストヨークシャーブレイハウスの資金調達戦略とチームの監督役も務める。



堀 貴雄 Takao Hori

岐阜県教育委員会教育総務課教育主管  
1961年岐阜県生まれ。1985年立命館大学文学部卒業。1985年から20年間、県立高校教諭として勤務。2005年から岐阜県教育委員会において、主に高等学校の活性化などについて担当。2012年から2年間、県立東濃高校教諭。2014年から2年間、県立不破高校校長として勤務。2016年から県教育委員会教育総務課教育主管、東濃高校教諭として勤務時に可見市文化創造センター衛 紀生、文学座演出家 西川信廣氏などの協力を得て、生徒向けの「演劇ワークショップ」を実施。その後、不破高校でも同ワークショップを実施。



幸地 正樹 Masaki Kochi

ケイスリー株式会社 代表取締役 CEO  
2007年にPwCコンサルティング合同会社へ入社。主として中央省庁や地方自治体など官公庁に対する最適化戦略策定支援、調達の企画・事業者評価支援、プロジェクト管理支援等の業務に従事。2014年よりソーシャルインパクトボンドの導入推進に携わり、その後、(公財)日本財団が取組むソーシャルインパクトボンド推進事業に参画し、中央省庁や地方自治体の導入可能性調査や案件組成支援の他、WEBサイト運営やセミナー講師など啓蒙活動も行う。2016年にソーシャルインパクトボンドを含む社会的インパクト投資及び社会的インパクト評価に特化したコンサルティングサービスを提供するケイスリー株式会社を設立。ソーシャルインパクトボンドジャパン運営責任者、社会的インパクト評価イニシアチブ共同事務局、日本評価学会認定評価士、社会的インパクトセンターエグゼクティブフェロー、琉球大学非常勤講師。



ヴィヴィアン・ヒューズ Vivianne Hughes

ウェストヨークシャーブレイハウス  
資金調達部 シニア・マネージャー(トラスト・助成部門)  
ナショナルユースミュージックシアターに6年間勤務したのち、2000年よりウェストヨークシャーブレイハウス(WYP)に移り、クリエイティブ・エンゲージメント部門にて戦略計画やプロジェクト開発を主にしている。2009年にWYPにオープンした若者のための場「First Floor」にも深く関わり、この構想を実現するために資金調達を行い、プロジェクト開発と資金調達は共同で行う専門的な役割を担う。現在もWYPのすべての事業において、このアプローチを用いている。



新井 英夫 Hideo Arai

体藝家/ダンスアーティスト  
1966年埼玉生まれ。1987年総合の身体表現グループ「電気曲馬団」を主宰。まち・人・風景と交わるパフォーマンスをこの頃から継続中。野口体操を学び、「力を抜く、お手本は自然界」という自然哲学に深い影響を受ける。1996年にDANCE-LABO KARADAKARAを創立、主宰。体藝家・ダンスアーティストとして、国内外で活動中。国際共同創作も多数。公演活動との両輪として、障がいの有無を超えて乳幼児まで幅広い対象に「ほくす・つながる・つくる×身体表現とコミュニケーション」のワークショップを全国各地で展開中。国立音楽大学・立教大学非常勤講師。

## 総括責任者

下斗米隆 Takashi Shimotomai  
NPO法人世界劇場会議名古屋理事長

## コーディネーター

山出 文男 Fumio Yamada  
NPO法人世界劇場会議名古屋副理事長

## Coordinator

坂崎 裕二 Yuji Sakazaki  
(公財)可見市文化芸術振興財団

# 世界劇場会議国際フォーラム 2018 in さいたま

International Theatre Conference Forum 2018 in Saitama



## 参加申込要項

### ●参加費

フォーラム参加費 **2,000円** レセプション参加費 **4,000円**

### ●申込方法

参加申込用紙にご記入の上、郵便・faxまたは同じ内容をE-mailにてお送りください。  
フォーラム当日参加費のお支払いをお願いします。

申込締切 **2018年1月31日(水)**

※当日の参加もお受けいたします。ただし参加者多数の場合はお断りする場合がございます。

### ●会場案内

**さいたま市文化センター**

〒336-0024 さいたま市南区根岸1-7-1  
Tel 048-866-3171 Fax 048-837-2572

※電話・Faxのおかけ間違いのないよう十分ご注意ください

JR南浦和駅西口下車徒歩7分  
戸田西ICより6.5km/外環浦和ICより2.5km  
駐車場137台完備(有料)最初の1時間無料。  
1時間超から1時間30分以内は210円以降30分毎に108円を加算します。(10円未満切り捨て)

※駐車場に限りがございますので、公共の交通機関をご利用ください。



申 込  
お 問 合 せ

(公財)さいたま市文化振興事業団「世界劇場会議国際フォーラムInさいたま」係  
〒336-0024 さいたま市南区根岸1-7-1

Tel. 048-866-3467 Fax. 048-837-2572  
E-mail artm@saitama-culture.jp

## 世界劇場会議国際フォーラム2018 in さいたま 参加申込用紙

ふりがな		性別	年齢	所属団体
お名前		男・女	才	
※団体申込の場合は代表者をご記入の上、参加者名簿をお送りください。				
ご連絡先	〒(      )			
	都道府県		区市郡	
	電話 (      )	—	FAX (      )	—
E-mail				

参加費	フォーラム参加費 2,000円 ×      人	レセプション参加費 4,000円 ×      人
	合計      円	
	参加費納入に際しての請求書 <input type="checkbox"/> 必要	領収書の発行 <input type="checkbox"/> 必要
請求書の宛名		

**artm@saitama-culture.jp / Fax. 048-837-2572**

International Theatre Conference Forum 2018 in Kani

世界劇場会議国際フォーラム 2018 in 可児

2018年2月8日[木]～9日[金]

会場: 可児市文化創造センターala

詳細はwebサイトをご覧ください。

http://www.kpac.or.jp